

* 研究目的

今日、地球のあらゆる地域で、地球温暖化問題の影響による気候変動、異常気象などが多発化してきている。とくにアジア地域では深刻なレベルでの環境破壊が進んでおり、持続可能性や自然共生社会の実現のための仕組みづくりが急がれ、国連各機関での国際的な合意形成、政策の整備がなされてきている。そのなかでも、地域の環境や土地などの自然資源、動植物などの遺伝資源との関係が先住民族によって一定の調和のもとに保持されてきた。それは長期にわたって地域コミュニティのなかで守られてきた「伝統的知識 traditional knowledge」によるところが大きい。その重要性が近年、再評価されてきている。この「伝統的知識」を軸に、環境との持続可能な生活様式を考えなおし、再評価することは、環境教育においても大きな役割を果たすものと考えられる。

社会的な趨勢としては、「生物多様性条約 (CBD: Convention on Biological Diversity)」(1992年)の発効を皮切りに、「先住民族の権利に関する国連宣言」(2007年)、「国連ミレニアム開発目標 (MDGs: Millennium Development Goals)」(2000年)、「テサロニキ宣言 (環境と社会に関する国際会議: 持続可能性のための教育とパブリック・アウェアネス)」(1997年)など、さまざまな領域において、伝統的知識の重要性と文化保全が再評価されなければならない状況にあるといえる。

本研究では、地域コミュニティの環境、歴史・伝統などの文化的多様性と「内発的な発展」に根ざした伝統的知識の集積による環境教育の研究を行なう。このような研究は、地域の自然環境、多様な文化的環境を保全する一つの方法論として、ライフスタイルへと具体的に応用できるストラテジーを提案することになる。

テサロニキ宣言によって示される、「持続可能性は道徳的・倫理的規範であり、そこには尊重すべき文化的多様性や伝統的知識が内在している」という実相について、理論と実践の両側面から明らかにすることが本研究の目的である。

* 研究チームメンバーと研究課題

谷口 文章	甲南大学文学部	環境教育学の研究
岡田 元浩	甲南大学経済学部	経済学史からみたアジアの労働環境
小西幸男	甲南大学国際交流センター	国際理解教育と環境教育
藤原三枝子	甲南大学国際言語文化センター	異文化理解教育と環境教育
曾我部晋哉	甲南大学スポーツ・健康科学 教育研究センター	スポーツ医学からみた環境教育論
橋口 誠	甲南学園常任顧問・甲南中・ 高等学校元校長	環境教育による中・高等学校・大学一貫教育
近藤 靖宏	甲南大学教職センター・ 環太平洋大学常任理事	いのちの教育からみた環境教育

Chinatat	タイ・プラナコーン=ラジャバト大学	タイにおける環境教育と国際
Nagashinha	環境教育センターセンター長, 甲南大学 国際環境教育ネットワーク・ゲストスピーカー	ネットワークの構築
Azizan Baharuddin	マラヤ大学教授・マレーシア政府 イスラム理解研究所副所長	イスラム理解教育と環境教育 の展開
Shaliza Ibrahim	マラヤ大学教授	マレーシアにおける環境都市工学
谷 荘吉	高齢者ケアセンター甲南診療所 所長	ヘルスプロモーションと環境の医学
今井佐金吾	広島修道大学・甲南大学 非常勤講師	地球環境科学論
小島夏彦	大阪工業大学・甲南大学 非常勤講師	淀川流域圏保全と生物多様性
清水芳久	京都大学大学院工学研究科附属 流域圏総合環境質研究センター・ 甲南大学非常勤講師	流域の統合管理システムの構築
浅野能昭	トヨタ白川郷自然学校副校長・ 甲南大学非常勤講師	国立公園をめぐる環境政策と環境教育
大久保規子	大阪大学大学院法学研究科教授・ 甲南大学非常勤講師	グリーン・アクセス・プロジェクトと協働のし くみ
渡辺りわ	大阪産業大学非常勤講師	環境プラグマティズムと環境教育
天野雅夫	神戸親和女子大学通信教育課 非常勤講師	里山保全とコモンズ論の展開
高原哲史	神戸医療福祉専門学校非常勤講師	環境教育のモラルジレンマ授業の展開